

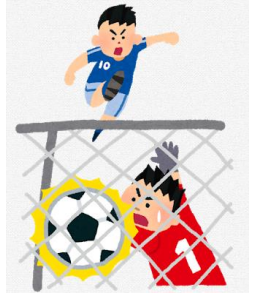
横浜市立東山田小学校 学校だより 2月号 令和3年1月29日発行

## 「やり抜くこと」が「次の成長」につながる

副校長 木村 政己

朝の澄んだ冷たい空気を肌を感じ、まだまだ厳しい寒さが残る季節ですが、きらきらとした美しい日差しを浴びると春の訪れがもうそこまで来ていることが感じられます。2月になると相模湾では「春告魚」(メバル)が釣れ始め、春が訪れると言われています。

新しい年になり、約1か月が経ちました。本校では、子どもたちが寒さに負けず、校庭で元気に躍動する姿、全力で学習に取り組む姿が見られます。書き初めでは、どの学年の子どもたちも気持ちを新たに真剣に取り組んでいました。体育の時間は自分の目標を設定し、友達と記録を取り合い、応援し合いながら持久走を行っていました。子どもたちが元気に躍動し、学び合う姿を見ると、6月からの成長を感じることができ、とてもうれしく思います。



先日は外国語活動の一環として外国人講師をお招きし、本校で「英語村」を開催しました。学年の児童の発達段階にあった外国語のアクティビティーを通して、外国人講師、先生、学年の友達と楽しみながら英語でのコミュニケーションに慣れ親しみました。

さて今年度も残り2月、3月の2か月を残すのみとなりました。そして、この2か月間は、1年間を振り返るとともに、今年度のまとめになる大切な時期となります。先日、新年の風物詩である箱根駅伝と全国高校サッカー選手権決勝戦をテレビで観戦しました。箱根駅伝は、最後のアンカーの10区でドラマが生まれ、見事に駒澤大学の優勝で幕を閉じました。全国高校サッカー選手権は山梨学院高校と青森山田高校の対戦となり、前後半90分では決着がつかず、PK戦までもつれる好ゲームとなりました。最後は山梨学院高校がPK戦を制し、優勝しました。箱根駅伝で惜しくも2位になった創価大学、高校サッカーで準優勝に終わった青森山田高校にも惜しめない拍手が送られ、その活躍が称えられました。駅伝もサッカーもたいへん見応えがあり、観戦し終わったときには胸が熱くなり、感動を覚えました。大会後の駅伝ランナー、サッカー選手、監督のインタビューの中に「自分が掲げた目標、チームが掲げた目標に向かって努力し、やり抜いた」という言葉がありました。掲げた目標に対して日々努力を積み重ね、やり抜いたからこそ素晴らしいレース、試合を行うことができたのだと思います。そして、同時に次のステップへの目標が明確になり、新たな目標に向かって進み、さらなる成長につながると感じました。準優勝に終わった青森山田高校は、1月11日の決勝戦の6日後には新チームが発足し、来年度の100回大会優勝を目標に掲げ、現在、高校サッカー東北大会新人戦に参加しているそうです。



年度末に向けて、本校においても、子どもたち一人ひとりが、クラスが、学年が、学校全体がそれぞれ今年度に掲げた目標に向かってやりぬき、新たな目標を立て、次へのステージ、さらなる成長につなげられるように2月、3月を大切に過ごしていきたいと考えます。

感染症予防対策を行いながら実りある学校教育活動を進めていきたいと思ひます。引き続き保護者・地域の皆様のご理解とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。